



山田 忠晴 (公明党)

熱中症対策に取り組もう！



問／当市の熱中症対策に関する市民への注意喚起の取組について聞きたい。

答／広報上越やホームページ等で、気温が高くなる時には「こまめに水分補給する」、「暑い場所での長時間の作業は避ける」といった熱中症予防のポイントを周知している。

問／公共施設における冷水機の設置計画は。

答／多くの公の施設を有する当市では、まずは、市民の皆さんから快適にご利用いただくための空調設備の維持管理を行っていくこととしており、利用者ご自身による水分や塩分補給といったソフト面での対策を引き続き促していく。

「ヤングケアラー」の現状と今後の取組

問／当市におけるヤングケアラーの現状と現状をどのように分析しているか。また、「上越市地域青少年育成会議」と連携し、ヤングケアラーの早期発見と支援に取り組む考えはないか。

答／現在はヤングケアラーとしての悩みを抱えている児童生徒の報告は無いが、県が令和3年度内を行う県内の中高生への実態調査の結果を注視し、必要に応じて対策を講じる。また、「上越市地域青少年育成会議」をはじめとする地域の関係組織に協力を依頼するなどの対応を講じて、ヤングケアラーの早期発見、適切な支援につなげていきたい。



牧田 正樹 (市民クラブ)

介護職員が足りない。確保策の強化を！



問／特別養護老人ホームの入所、待機状況は。

答／令和2年4月時点で定員1、694人に対し1、650人が入所している。待機者は797人いたが、入所の優先度が高い人は比較的早い段階から入所可能となっている。

問／職員不足を理由に特養が稼働できない状況はないか。人材確保策の課題と対策はどうか。

答／令和3年4月時点で市内全ての特養で職員数が確保され、平均稼働率は96%である。今後、介護の専門学校と連携し、継続就労セミナーへの協力等人材の確保、育成策の検討も進めたい。

問／勤務時間前のミーティングや業務日誌の記録、1日の残業時間の端数切捨て等の実態がある。施設に対し、改善の指導ができないか。

答／監査や普段の情報交換の中で話をしていく。

ヤングケアラーに対する支援を

問／ヤングケアラーの実態把握と対応状況、早期発見・課題解決への方策はどうか。

答／現在実態把握は行っていないが、日常的なアンケートで悩みの把握に努めている。県が令和3年度に中高生対象の調査を行うため、その結果を注視する。今後も関係機関や市民への啓発活動に力を入れる。また、関係者間の情報共有や連携強化を図り、早期発見、支援につなげ、子どもたちのすこやかな育ちを確保していく。



石田 裕一 (みづの)

業務委託の重要性和委託業者への配慮は



問／年度当初から開始する業務の見積合せについて、内定者以外の業者への連絡と、見積提出締切後14日程度よりも早く結果を示すことが必要と考える。見積業者への配慮はどうか。

答／公共施設の管理業務やごみ収集業務など毎年4月1日から開始する業務委託は約3、000件あり、年度当初に契約を締結する必要があるため、前年度中に見積合せで内定者を決定し、新年度予算議決を経て契約締結している。内定者以外の方でも問合せがあれば、その都度結果を答えているため、改めて周知に努める。

支援を求める外部団体への対応は

問／市は共催・後援を申請した団体への支援は協力してくれるが、それ以外の協力依頼は厳しく、部署や人によっても対応が違う。支援や協力を求める外部団体への対応を聞きたい。

答／共催・後援を承認した事業はポスターやチラシの配布等に協力してきしたが、未承認事業は、配布を市が行うことに関する配布先団体等の受け止め方も様々であり、団体等の負担を考慮し、原則的にお断りしている。



「上越市教育委員会」が後援となり、「第15回いきいき春日野・ふれあいコンサート」は盛況で、「いきいき春日野」主催の地域活動を支援